

# ピアノ中級技巧に向けての学習方法

三 國 正 樹

## **A Learning Method toward Intermediate Piano Technic**

Masaki MIKUNI



# ピアノ中級技巧に向けての学習方法

三 國 正 樹

群馬大学教育学部音楽教育講座

(2018年9月26日受理)

## A Learning Method toward Intermediate Piano Technic

Masaki MIKUNI

Department of Music, Faculty of Education, Gunma University Maebashi Gunma

(Accepted September 26th, 2018)

### はじめに

ピアノ演奏を習得するには、教則本と呼ばれる入門書を使用した個人指導を受けるのが一般的であり、その教則本が終了する頃には、たいいてい学習者がある程度まとまった長さの楽曲を演奏できるようになる。この段階から「中級」への段階に進むというのが一般的な理解と云ってよい<sup>1</sup>。

初級を終えて中級に進む学習者には何が必要なのか、そしてどういう演奏実践を行うべきかについて本論文では具体的に考察することとした。

初級の学習の大切さはバランスよくピアノ技巧を取得することにあると考えられるが、たとえ初級レベルでの演奏技巧の基本を習得したといっても、中級への学習をどのように進めるのかについては、指導者によって意見は分かれ、エチュードの選択も難しいと言われている。そこで、この「初級から中級へのピアノ学習」をどのように行うのかについて考察するのが本論文の目的である。

### 1. 中級演奏技巧について

ピアノ演奏における「初級」「中級」「上級」の定義は、2017年度群馬大学紀要論文「ピアノ上級技巧の学習方法」で定義したものをを用いる。まとめると以下の通りである。

- ・初級：教則本をおおむね学習し、まとまった長さの楽曲を両手で演奏できる能力。
- ・中級：古典派のソナチネ程度の楽曲を演奏できる能力。演奏技巧の基本は「音階（片手及び両手奏）」「アルペジオ（オクターヴ以内）」「和音（オクターヴ以内）」それとともに右ペダルを使用できること、および古典派作品に必要な装飾音が一通り演奏できることも含む。

---

1 教則本で有名なフェルディナント・バイエルは有名な教則本の序文で「私はこの後に中級程度の難易度まで進む詳しいピアノ教則本を出版することを考えている」と書いている。この言葉から、教則本終了から中級までのグレードが存在すると考えることができる。

- ・上級：クラウス・ヴォルターズ著『クラヴィーア作品便覧』Klaus Wolters “Handbuch der Klavierliteratur” のグレード表に掲載されている「Stufe（段階、以下“St.”と表記）」が12以上の楽曲を演奏できる能力。

## 2. 初級終了から中級までのグレード

ヴォルターズのグレード表によれば、初級の練習曲を St.1-4 としており、これを本論文でも初級の定義としたい。次に中級とは同グレード表の St.12 以上の楽曲を上級とした関係上、St. 6～11 までと定義できる。その理由は、中級で最も重要な練習曲と一般に考えられている「チェルニー30番」が St.6 となっているためである。ただし、教則本終了後に「ツェルニー30番」に進むのは難しいという指摘は、以前より、井口（1955）などによってなされている。

そうすると、初級が終わった St.4 と中級の始まり St.6 の間にある St.5 のグレードをどのように勉強するかという事が大事になると言えよう。

ヴォルターズのグレードによれば、St.5 に相当するピアノ曲としては、ゲルマー編「チェルニー 練習曲選集 I 第2巻」／バッハ「小プレリュード」／ハイドン「ピアノ・ソナタ Hob.8,11,7,9,1,3,10,2」／モーツァルト「6つのウィーン・ソナチネ」／ベートーヴェン「エコセーズ」「バガテル Op.33-3, 119-3, 119-4」／シューベルト「スケルツォ 変ロ長調」／シューマン「子供のためのアルバム Op.68-14,16,18,6,9,10,11」／カセッラ「子供のための小品」が挙げられている。

また、St.5 を含んだレヴェルの練習曲集として、ヘラー「リズムと表現のための25の練習曲 Op.47」(St.4-6 (7))／ブルクミュラー「25のやさしい練習曲 Op.100」(St.4-5)／チェルニー「125のパッセージ練習曲 Op.261」(St.4-9)／チェルニー「160の短い練習曲 Op.821（日本語版“8小節の練習曲”）」(St.4-8-11)が挙げられている。

これらの作品のテクニックの概要を考察すると以下ようになる。

- ・テンポの速くない楽曲であること。
- ・分散和音はおおむねオクターヴ以内で奏することができること。
- ・速いテンポでの和音交替が少ないこと。
- ・トリル、モルデント、アッポジャトゥーラなどの装飾音が含まれる曲があること。
- ・ペダル使用を必要とする曲もあること（シューマン Op.68-14 など）。
- ・強弱表現の幅が広くないこと。
- ・感情表現を必要とする曲もあるが子供でも理解できる範囲であること。

ただし、バッハ「小プレリュード」には「ヴィルヘルム・フリーデマン・バッハの為のクラヴィーア小曲集よりの小さな前奏曲（BWV924,926,927,930,928,925）」「ヨハン・ペーター・ケルナーのコレクションよりの6つの小さな前奏曲（BWV939,940,941,942,943,999）」「クラヴィーア初歩者のための6つの小さな前奏曲」があり、ヴォルターズの前掲書ではこれらをまとめて St.4-5 (-7) としているが、筆者の経験では「ヘ長調 BWV928」「ニ長調 BWV925」は対位的に複雑であるし、「クラヴィーア初歩者のための6つの小さな前奏曲」は「インヴェンション」と同等のレヴェルと思われる。そのためここでは除外して考えることとする。

以上の概要から考えると、中級の楽曲とは以下のように定義することができるだろう。いずれも前掲書のグレードが「St.6」の作品である。

- ・テンポがある程度速い楽曲。
- ・ある程度の和音の連続がある作品（シューマン「子供のためのアルバム」Op.68では「第28曲“追憶”」「第23曲“騎手の曲”」など）。
- ・強弱表現の幅が広い曲（メンデルスゾーン「無言歌集」よりOp.30-6“ヴェネツィアの舟歌”）など。

この段階に進むことを考えて、テクニック、表現面の勉強を段階的に進めることが重要であろう。

### 3. 中級「練習曲」における演奏技巧

中級の「練習曲集」にはどんな演奏技巧が表れているのだろうか。この章ではその点について検討していくこととする。

中級の練習曲集と一般に言われているものの中で、チェルニー「30番練習曲」および「指の独立のための予備練習」、ル・クーベ「ピアノの練習ラジリテ」を対象として、テクニックがどのように用いられているかを調べた。この3つに限定したのは、一般的に広く用いられている練習曲、筆者が今までの指導上で価値のあると判断した練習曲、およびドイツ系の練習曲が多い日本において比較的多く使用されているフランスの練習曲という観点からである。

まず、技巧を次の3種類に分類した。

- a 音階中心の練習曲    b 分散和音中心の練習曲    c 和音中心の練習曲

「音階」「和音」「分散和音」はピアノ演奏テクニックの基本であり、それらを組み合わせることで難易度も変わっていく。複合型の練習曲が多くなるほど難易度は高くなると考える。以下の表では複合型の技巧は、例えば音階と分散和音を組み合わせたものは「ab」というように示した。なお、重音（3度、6度、8度など）は和音の連続したものと考える。テクニックはその曲でのねらいと考えられるものについてのみを考え、伴奏形は考慮しない。

さらに、設定されるテンポが速くなるほど、また、曲の長さが長いほど難易度は高くなると考えた。分析した結果は以下の通りである。なお、特殊なテクニック（反復音）などは備考欄に表示した。

#### ○チェルニー「30番練習曲」 Czerny: 30 Etudes de mecanisme, Op.849

番号	技巧分類	テンポ・拍子	小節数	備考（*はペダル指示あり）
1	a (右手)	Allegro ♩ = 100, 4/4	32	
2	b (左手)	Molto Allegro ♩ = 108, 4/4	36	
3	a (右手)	Allegro ma non troppo ♩ = 72, 4/4	24	
4	b (右手)	Allegro ♩ = 144, 4/4	24	
5	b (両手)	Vivace giocoso ♩ = 76, 2/4	24	
6	a (右手)	Allegro leggiero ♩ = 76, 4/4	31	
7	b (左手)	Vivace ♩ = 76, 4/4	32	
8	a (右手)	Vivace ♩ = 84, 2/4	27	
9	a (左手)	Allegretto vivace ♩ = 80, 2/4	24	
10	b (両手)	Allegro moderato ♩ = 116, 4/4	24	

番号	技巧分類	テンポ・拍子	小節数	備考（*はペダル指示あり）
11	a (両手)	Molto vivace ♩ = 66, 6/8	20	
12	a (右手)	Allegretto animato ♩ = 76, 2/4	39	反復音
13	b (右手)	Molto vivace e leggero ♩ = 100, 6/8	48	和音と分散和音の組合せあり
14	a (左手)	Molto vivace ♩ = 80, 2/4	28	
15	b (両手)	Allegretto vivace ♩ = 80, 2/4	36	
16	ac (両手)	Molto vivace energico ♩ = 100, 2/4	32	
17	ab (右手)	Vivace giocoso ♩ = 108, 2/4	48	前打音
18	b (両手)	Allegro risoluto ♩ = 138, 4/4	24	
19	a (両手)	Allegro scherzando ♩ = 60, 3/8	48	休符を含んだリズム練習
20	a (右手)	Allegro piacevole ♩ = 60, 6/8	24	
21	a (右手)	Allegro vivace ♩ = 138, 4/4	24	半音階
22	a (両手)	Allegro ♩ = 144, 4/4	31	トリル
23	a (両手)	Allegro comodo ♩ = 132, 4/4	34	
24	b (両手)	Allegro moderato ♩ = 112, 4/4	32	
25	b (右手)	Allegro en galop ♩ = 138, 4/4	27	
26	a (右手)	Allegretto vivace ♩ = 92, 2/4	36	反復音
27	b (両手)	Allegro comodo ♩ = 120, 4/4	28	手の交差あり
28	c (両手)	Allegro ♩ = 72, 6/8	24	
29	a (両手)	Molto Allegro ♩ = 100, 4/4	16	
30	a (両手)	Molto vivace ♩ = 80, 4/4	24	

技巧別にまとめると以下のようなになる（両手の練習曲はそれぞれ1曲に数えることとする）。

技巧	a (音階)	b (分散和音)	c (和音)
番 号	1,3,6,8,9,10,11,12,14,16,17,19,20,21,22,23,26,29,30	2,4,5,7,10,13,17,18,24,25,27	16,28
備 考	19曲 (右手16曲、左手9曲)	11曲 (右手9曲、左手8曲)	2曲 (右手2曲、左手2曲)
小節数	計 853 小節 (1曲平均 = 28.4 小節)		

テンポについて、4/4拍子で1拍を16分音符4つに分割するものと、2/4拍子で1拍を32分音符8つに分割するものは、結果的に同じ指の動きとなることから、速度としては同じと考える。全体をみるとほとんどが速いテンポを要求されているが、やや遅い「Allegretto」が4曲ある。ペダルの指示のある曲は含まれていない。

以上から考えられることは、この練習曲集は、右手及び音階の練習が多いなどの偏りはあるが、音階でも半音階を含んでいるし、反復音、装飾音などもあることから、バランスのとれた内容を示していることである。和音（重音）の練習曲が少ないのは、このテクニックが上級のものであるために少なくなっていると考えて良いと思われる。1曲あたりの小節数の平均は28.4小節であった。

## ○チェルニー「指の独立のための予備練習」 Czerny: Vorschule der Fingerfertigkeit, Op.636

番号	技巧分類	テンポ・拍子	小節数	備考（*はペダル指示あり）
1	ab (右手)	Allegro ♩ = 76, 2/4	31	
2	ab (左手)	Allegro ♩ = 76, 2/4	35	*
3	c (右手)	Allegro vivace ♩ = 152, 4/4	26	3度の重音（休符を含む）
4	c (両手)	Allegro ♩ = 144, 4/4	44	3度の重音（連続）
5	a (右手)	Allegro ♩ = 144, 3/4	30	
6	a (両手)	Allegro ♩ = 132, 4/4	28	
7	b (右手)	Allegro moderato ♩ = 92, 4/4	22	右手は6連符
8	b (左手)	Allegro moderato ♩ = 112, 3/4	33	
9	ab (右手)	Allegro vivace ♩ = 138, 4/4	27	* / 反復音
10	ab (右手)	Allegro, 2/4	28	
11	a (左手)	Allegro comodo, 4/4	28	
12	b (両手)	Allegro leggiero, 3/4	40	
13	c (両手)	Allegro vivace, 2/4	39	3度のスタッカート
14	ab (左手)	Allegro vivace, 6/8	32	
15	b (右手)	Allegro vivace, 6/8	31	
16	b (左手)	Allegro moderato, 3/4	32	
17	a (右手)	Allegro vivo e scherzando, 2/4	41	5連符
18	ab (両手)	Moderato, 2/4	33	
19	a (両手)	Molto Allegro, 3/4	24	半音階
20	b (右手)	Allegro veloce, 2/4	31	
21	a (右手)	Allegro vivo, 6/8	31	
22	ac (右手)	Allegro moderato, 2/4	40	和音とトリル
23	b (右手)	Molto Allegro, 4/4	20	
24	a (左手)	Allegro, 2/4	33	

技巧別にまとめると以下のようなになる（両手の練習曲はそれぞれ1曲に数えることとする）。

技 巧	a (音階)	b (分散和音)	c (和音)
番 号	1,2,5,6,9,10,11,14,17,19,21,22,24	1,2,7,8,9,10,12,14,15,16,18,20,23	3,4,13,22
数	13曲 (右手10曲、左手3曲)	13曲 (右手9曲、左手4曲)	4曲 (右手4曲、左手0曲)
小節数	計 759 小節 (1曲平均 = 31.6 小節)		

「30番練習曲」とは異なり、左右のバランスが良いことと5連符、6連符の動き、および重音の練習曲が含まれるのが特徴で、1曲あたりの小節数もこちらの方が長い（平均31.6小節）。つまり「30番練習曲」より技巧を多く学べるがややグレードは高いと考えて良い。先ほど同様に和音（重音）の練習曲が少ないのは、このテクニックが上級のものであることから少なくなっていると考えて良いと思われる。ペダルの指示は第2、9番の2曲にある。

テンポについては、全体的に速いテンポの曲であり、やや遅い曲は「Moderato」の1曲のみである。なお、「30番練習曲」同様、4/4拍子で1拍を16分音符4つに分割するものと、2/4拍子で1拍を32分音符8つに分割するものは、結果的に同じ指の動きとなることから、速度としては同じと考える。また、1拍を6分割

するタイプの練習曲（第7番）は、1拍が同じテンポだとすると、第8番に比べて指の動きが1.2倍の速さとなることから、表示されているような遅めのテンポ設定となっていると考えられる。そのため、第7番と第8番の関係もほぼ同じ速さと考えて良い。そうするとこの練習曲集は、音階と3度の重音奏法では1拍を♩ = 132~144程度で演奏すること、分散和音では1拍を♩ = 112程度で演奏することを目標としていると言える。第10番以降はメトロノーム表示がないが、アレグロであればほぼ同じ速さと考えることが可能であろう。

○ル・クーペ「ピアノの練習ラジリテ」Le Couppey: L'Agilite, 25 Etudes progressives, Op.20

番号	技巧分類	テンポ	小節数	備考（*はペダル指示あり）
1	a (右手)	Allegro ♩ = 138, 4/4	22	
2	a (右手)	Allegro ♩ = 144, 4/4	25	
3	a (両手)	Allegro moderato ♩ = 120, 3/4	45	前半は休符を含む
4	a (両手)	Allegro ♩ = 144, 3/4	28	
5	a (右手)	Allegretto ♩ = 112, 2/4	29	5連符
6	a (両手)	Allegretto ♩ = 50, 3/4	33	
7	a (両手)	Allegretto ♩ = 50, 3/8	55	反復音
8	a (右手)	Allegro ♩ = 152, 3/4	29	
9	b (両手)	Allegro moderato ♩ = 100, 4/4	22	6連符
10	a (両手)	Allegro ♩ = 144, 4/4	28	
11	a (両手)	Allegretto ♩ = 88, 6/8	46	トリル
12	a (右手)	Allegro ♩ = 144, 4/4	26	
13	a (右手)	Allegro ♩ = 132, 4/4	24	
14	a (右手)	Allegro ♩ = 50, 3/4	23	半音階
15	a (両手)	Allegretto ♩ = 92, 6/8	27	
16	a (右手)	Allegro ♩ = 152, 4/4	20	半音階
17	a (両手)	Allegro ♩ = 126, 4/4	26	反復音
18	ab (右手)	Allegro ♩ = 80, 2/4	22	
19	a (両手)	Allegro ♩ = 138, 3/4	27	
20	ab (右手)	Allegro moderato ♩ = 120, 4/4	23	
21	b (両手)	Allegro ♩ = 69, 2/2	29	
22	a (両手)	Allegro ♩ = 160, 3/4	45	
23	a (両手)	Tempo giusto ♩ = 104, 3/4	28	半音階
24	a (両手)	Allegretto ♩ = 48, 6/8	28	
25	a (右手)	Allegretto ♩ = 116, 2/4	48	

先ほど同様にこのデータを技巧別にまとめると以下ようになる。

技巧	a (音階)	b (分散和音)	c (和音)
番号	1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,12,13,14,15,16,17,18,19,20,22,23,24,25	9,18,20,21	
備考	23曲 (右手23曲、左手12曲)	4曲 (右手4曲、左手2曲)	
小節数	計 758 小節 (1曲平均 = 30.3 小節)		

「ラジリテ L'AGILITE」とは「敏捷性」のことで、この練習曲のねらいはそこにあるため、和音の練習を目的としたものがないことが特徴である。テンポの速い曲が中心であるが、やや遅いもの（「Allegretto」）が6曲ある。前述のチェルニーと比べると、取り上げられる技巧に偏りがみられるが、両手奏が多いことと、半音階および反復音の練習曲が複数あるのが特徴と言える。1曲あたりの小節数の平均は30.3小節で、先に挙げたチェルニーのちょうど中間に位置している。ペダルの指示のある作品は含まれていない。

#### 4. 「中級に向けて」の技巧習得

すでに述べたように、初級と中級の間には「St.5」というレベルが存在した。そのレベルを含んだ練習曲について考察する。前に述べた練習曲の中で、ヘラー「リズムと表現のための25の練習曲 Op.47」およびブルクミュラー「25のやさしい練習曲」、チェルニー「8小節の練習曲」についてその内容を分析してみた。以下の通りである。

○ヘラー「リズムと表現のための25の練習曲 Op.47」(St.4-6 (7))

Heller: 25 Etüden zur Bildung des Gefühls für musikalischen Rhythmus und Ausdruck. Op.47

技巧分類、テンポ、小節数の一覧を以下に記す。

番号	技巧分類	テンポ	小節数	備考（*はペダル指示あり）
1	b (両手)	Allegretto ♩ = 80, 2/4	36	
2	b (左手)	Andante ♩ = 36, 3/8	82	
3	c (両手)	Allegretto con moto ♩ = 100, 3/4	49	
4	c (両手)	Andantino con moto ♩ = 108, 4/4	49	
5	c (右手)	Allegretto poco agitato ♩ = 126, 3/4	47	
6	b (右手)	Allegro ♩ = 104, 4/4	62	*
7	c (両手)	Vivace ♩ = 108, 3/8	114	* / スタッカート練習
8	a (右手)	Assai vivace ♩ = 76, 3/4	47	
9	bc (両手)	Andantino ♩ = 69, 4/4	22	*
10	c (両手)	Moderato ♩ = 100, 4/4	50	*
11	bc (右手)	Molto Vivo ♩ = 84, 3/4	40	
12	bc (両手)	Assai vivo e giocoso ♩ = 192, 3/4	79	*
13	c (両手)	Allegretto ♩ = 126, 4/4	45	*
14	bc (両手)	Allegretto ♩ = 80, 6/8	60	*
15	b (両手)	Adagio ♩ = 72, 4/4	33	*
16	c (両手)	Andantino ♩ = 82, 4/4	33	*
17	b (右手)	Allegro con spirito ♩ = 78, 3/4	60	*
18	c (両手)	Vivace ♩ = 120, 6/8	54	*
19	b (左手)	Con moto ♩ = 92, 3/4	69	*
20	c (両手)	Moderato ♩ = 104, 4/4	54	*
21	c (両手)	Andante ♩ = 84, 3/4	36	
22	bc (両手)	Allegro assai ♩ = 138, 9/8	59	*
23	bc (両手)	Andante ♩ = 54, 2/4	38	*

番号	技巧分類	テンポ	小節数	備考 (*はペダル指示あり)
24	bc (右手)	Allegretto con moto ♩ = 63, 2/4	58	*
25	abc (両手)	Allegro ♩ = 192, 4/4	136	* / 半音階含む総合練習

技巧別にまとめると以下のようになる。

技 巧	a (音階)	b (分散和音)	c (和音)
番 号	8,25	1,2,6,9,11,12,14,15,17,19,22,23,24	3,4,5,7,9,10,11,12,13,14,16,18,20,21,22,23,24,25
備 考	2曲(右手1曲、左手2曲)	13曲(右手11曲、左手10曲)	18曲(右手18曲、左手15曲)
小節数	計 1154 小節 (1曲平均 = 46.2 小節)		

この練習曲は音階が少なく、和音が多いことが特徴である(テンポの速い曲6曲、テンポの遅い曲 [Allegretto 含む] 12曲)。第7番と第25番に長い曲が置かれているため全体の小節数は多くなっており、1曲あたりの平均も46.2小節である。その長い2曲を仮に除外してみても平均は36.2小節であり、前述の中級練習曲よりも長い。ということは、この練習曲は分散和音、和音に親しませるため、ある程度の長さに慣れさせるためという目的で使用するのが望ましいと言える。

#### ○ブルクミュラー「25のやさしい練習曲」(St.4-5) Burgmüller: 25 Etüden Op.100

技巧分類、テンポ、小節数の一覧を以下に記す。

番号	技巧分類	テンポ	小節数	備考 (*はペダル指示あり)
1	a (両手)	Allegro ♩ = 152, 4/4	22	
2	a (両手)	Allegro ♩ = 152, 2/4	31	
3	c (左手)	Andantino ♩ = 66, 6/8	29	
4	c (両手)	Andantino con moto ♩ = 108, 4/4	30	
5	a (右手)	Moderato ♩ = 112, 3/4	16	
6	a (両手)	Allegro ♩ = 132, 4/4	16	
7	b (右手)	Allegro ♩ = 176, 4/4	16	
8	ac (両手)	Moderato ♩ = 100, 3/4	16	
9	bc (左手)	Allegro vivace ♩ = 132, 6/8	56	反復音含む
10	b (両手)	Moderato ♩ = 152, 4/4	24	
11	b (両手)	Allegretto ♩ = 138, 2/4	29	
12	b (両手)	Allegro molto agitato ♩ = 184, 4/4	41	
13	b (両手)	Allegro moderato ♩ = 152, 4/4	26	
14	c (左手)	Mouvement de valse ♩ = 176, 3/4	36	装飾音含む
15	b (両手)	Allegro con brio ♩ = 104, 3/8	96	
16	a (両手)	Allegro moderato ♩ = 126, 4/4	16	
17	a (右手)	Allegretto ♩ = 72, 3/4	34	反復音
18	a (右手)	Allegro agitato ♩ = 138, 23/4	30	
19	c (両手)	Andantino ♩ = 100, 3/4	30	
20	ab (両手)	Allegro vivo ♩ = 160, 6/8	66	
21	b (両手)	Allegro moderato ♩ = 152, 4/4	32	

番号	技巧分類	テンポ	小節数	備考 (*はペダル指示あり)
22	c (両手)	Andantino quasi Allegretto ♩ = 72, 6/8	47	
23	c (両手)	Molto agitato quasi presto ♩ = 126, 6/8	38	和音のスタッカート
24	b (両手)	Allegro non troppo ♩ = 138, 4/4	30	
25	ac (両手)	Allegro marziale ♩ = 152, 4/4	46	

技巧別にまとめると以下ようになる。

技 巧	a (音階)	b (分散和音)	c (和音)
番 号	1,2,5,6,8,16,17,18,20,25	1,2,6,9,11,12,14,15,17,19,22,23,24	3,4,5,7,9,10,11,12,13,14,16,18,20,21,22,23,24,25
備 考	10曲(右手10曲,左手7曲)	10曲(右手9曲,左手9曲)	8曲(右手6曲,左手8曲)
小節数	計 799 小節 (1 曲平均 = 31.2 小節)		

この練習曲はそれぞれのテクニックがバランスよく配置されており、長さも平均 31.2 小節とそれほど長くない。一般的に多く用いられる原因がその辺りにありそうである。そして和音の練習が全体の 3 割というように多くなっていること (テンポの速い曲 3 曲、テンポの遅い曲 5 曲) も、中級への課題、特にソナチネなどのホモフォニックな作品演奏への準備として適切と思われる。

○チェルニー「160 の短い練習曲 Op.821 (日本語版 “8 小節の練習曲”)」(St.4-8-11)

Czerny: 160 Kurze Übungen Op.821 (全 4 部 / 第 1 部・第 2 部のみ)

技巧分類、テンポ、小節数の一覧を以下に記す。

番号	技巧分類	テンポ	小節数	備考 (*はペダル指示あり)
1	a (右手)	Allegro, 4/4	8	
2	a (左手)	Allegro, 3/4	8	
3	c (右手)	Allegretto, 4/4	8	3 度
4	b (左手)	Vivace, 6/8	8	
5	a (右手)	Andantino espressivo, 3/4	8	トリル
6	a (左手)	Andantino, 3/4	8	
7	a (右手)	Allegro vivace, 4/4	8	半音階
8	a (左手)	Allegro, 4/4	8	半音階
9	a (右手)	Vivace, 6/8	8	
10	b (左手)	Allegro, 2/4	8	
11	c (右手)	Allegro moderato, 4/4	8	8 度
12	ab (右手)	Allegro moderato, 4/4	8	
13	a (左手)	Allegro moderato, 4/4	8	
14	a (右手)	Allegretto, 3/8	8	装飾音
15	a (右手)	Allegretto, 2/4	8	
16	ab (両手)	Allegro moderato, 2/4	8	反復音
17	a (右手)	Allegro vivace, 4/4	8	反復音
18	a (左手)	Allegretto, 3/8	8	
19	c (両手)	Allegretto animato, 3/4	8	3 度

番号	技巧分類	テンポ	小節数	備考 (*はペダル指示あり)
20	c (左手)	Allegro, 4/4	8	3度
21	c (右手)	Allegretto moderato, 3/4	8	
22	b (右手)	Allegro vivace, 6/8	8	
23	ab (右手)	Allegro, 4/4	8	
24	ab (両手)	Allegro, 4/4	8	
25	ac (右手)	Allegro, 4/4	8	トリル・和音複合
26	ab (左手)	Allegretto, 3/4	8	トリル・和音複合
27	a (右手)	Allegretto giocoso, 6/8	8	トリル
28	a (左手)	Allegro moderato, 4/4	8	
29	c (右手)	Allegretto moderato, 6/8	8	3度
30	a (両手)	Allegro, 4/4	8	
31	b (両手)	Allegro, 4/4	8	
32	a (右手)	Andantino grazioso, 6/8	8	
33	b (右手)	Allegro, 3/4	8	
34	a (両手)	Andantino ♩ = 69, 4/4	8	
35	b (左手)	Allegro 3/4	8	
36	ac (右手)	Allegro, 6/8	8	トリル・和音複合
37	b (右手)	Allegro, 4/4	8	
38	b (右手)	Vivace, 6/8	8	
39	c (左手)	Allegro moderato, 4/4	8	3度
40	abc (右手)	Allegro moderato, 3/4	8	
41	c (右手)	Allegretto, 6/8	8	3度、6度
42	b (両手)	Allegro moderto, 6/8	8	
43	a (両手)	Allegro moderato, 4/4	8	
44	b (右手)	Allegro, 2/4	8	
45	c (両手)	Allegro vivace, 3/4	8	
46	a (右手)	Allegro, 3/4	8	
47	b (右手)	Vivace, 2/4	8	
48	bc (両手)	Allegro, 4/4	8	
49	bc (両手)	Allegro, 4/4	8	複前打音・和音複合
50	abc (右手)	Allegretto animato, 4/4	8	
51	a (右手)	Allegro moderato, 4/4	8	トリル
52	a (左手)	Allegro, 4/4	8	
53	c (両手)	Andantino, 3/4	8	
54	b (両手)	Vivace, 4/4	8	
55	c (両手)	Allegro, 4/4	8	3度
56	c (両手)	Allegro, 3/4	8	
57	b (右手)	Allegro, 4/3	8	
58	a (左手)	Vivace, 2/4	8	
59	ab (右手)	Veloce, 4/4	8	

番号	技巧分類	テンポ	小節数	備考 (*はペダル指示あり)
60	ac (両手)	Andante, 3/4	8	
61	ab (右手)	Allegro, 3/8	8	
62	a (右手)	Allegro moderato, 4/4	8	
63	c (右手)	Allegretto, 6/8	8	3度
64	c (両手)	Andante, 3/4	8	
65	a (右手)	Allegro, 2/4	8	
66	b (両手)	Allegro, 4/4	8	
67	b (右手)	Allegro, 6/8	8	
68	b (両手)	Allegro, 4/4	8	
69	a (両手)	Allegro vivace, 4/4	8	
70	b (両手)	Allegro, 4/4	8	
71	bc (両手)	Allegro giocoso, 6/8	8	8度、分散和音
72	c (両手)	Allegro, 3/4	8	
73	ab (右手)	Andantino espressivo, 12/8	8	
74	ac (右手)	Allegro, 4/5	8	
75	ab (右手)	Allegro moderato, 4/4	8	
76	c (両手)	Allegro, 12/8	8	3度、8度
77	a (両手)	Allegro, 6/8	8	
78	c (右手)	Allegro vivace, 3/4	8	3度、6度
79	c (右手)	Allegro, 4/4	8	8度
80	a (両手)	Allegro, 4/4	8	トリル
81	b (右手)	Allegro moderato, 4/4	8	
82	b (左手)	Allegro, 6/8	8	

全160曲であるが4部に分かれており、第3部からグレードが上がっているため、第2部までを分析した。技巧別にまとめると以下ようになる。

技 巧	a (音階)	b (分散和音)	c (和音)
番 号	1,2,5,6,7,8,9,12,13,14,15,16,17,18, 23,24,25,26,27,28,30,32,34,36,40, 43,46,50,51,52,58,60,61,62,65,69, 73,74,75,77,80	4,10,16,22,23,24,26,31,33,35,37,38, 40,42,44,47,48,49,50,54,57,59,61, 66,67,68,70,71,73,75,81,82	3,11,19,20,21,25,29,36,39,40,41,45, 48,49,50,53,55,56,60,63,64,72,74,7 6,78,79
備 考	41曲 (右手32曲、左手16曲)	32曲 (右手27曲、左手16曲)	26曲 (右手24曲、左手13曲)
小節数	計656小節 (1曲平均=8小節)		

この練習曲は1曲がすべて8小節という短いものであることが特徴である。それぞれのテクニックもバランスよく配置されており、和音の練習も前述の「ブルクミュラー」同様に全体の3割を占める(テンポの速い曲15曲、テンポの遅い曲[Allegretto含む]9曲)。右手、左手の比率は右手のためのものが左手の約2倍となっており、やや右手偏重と言える。



アンケートの分析は以下の通りである。

回答総数：81

・質問 1

項 目	回答数	割合	備 考
バイエル	45	56%	
メトードローズ	5	6%	
トンプソン	3	4%	
グローバー	2	3%	
ピアノランド	2	3%	
Miyoshi ピアノメソード	0	0%	
ヤマハ教則本	23	29%	
その他 ( )	13	16%	ブルクミュラー3, バーナム2, ハノン2, ピアノのアルファベット2, ピアノのテクニック2, ピアノの森2

・質問 2

項 目	回答数	割合	備 考
ツェルニー・リトルピアニスト	7	9%	
ツェルニー100番	19	24%	
ツェルニー110番	2	3%	
ケーラー	2	3%	
グルリット	1	1%	
ツェルニー第一課程	0	0%	
ツェルニー8小節	0	0%	
バーナム	14	18%	
ツェルニー30番	38	48%	
ブルクミュラー25練習曲	3	4%	
ル・クーペ ピアノのアルファベット	3	4%	
その他 ( )	6	8%	トルコ行進曲/エリーゼのために / 「好きなのを弾いていいよと言われた」 / ハノン3

## ・ 質問 3

項 目	回答数	割合	備 考	
片手のテクニック	全音階	9	11%	
	半音階	19	24%	
	アルペッジョ	29	36%	
	和音	12	15%	
	前打音	8	10%	
	トリル	28	35%	
	反復音	8	10%	
	重音	24	30%	
両手のテクニック	全音階	27	34%	「特に下行形」1名
	半音階	26	33%	
	アルペッジョ	35	44%	
	和音	17	21%	
	重音	15	19%	

## ・ 質問 4

項 目	回答数	割合	備 考
ツェルニー30番	57	71%	
ツェルニー「指の独立のための予備練習 Op.636」	2	3%	
ル・クーペ「ピアノの練習ラジリテ」	0	0%	
ツェルニー「左手のための24の練習曲」	2	3%	
ツェルニー「小さな手のための25の練習曲」	1	1%	
ブルグミュラー「18の練習曲 Op.109」	24	30%	
ヘラー「リズムと表現のための練習曲」	0	0%	
ヘラー「30の練習曲」	0	0%	
ヘラー「25の練習曲 Op.45」	0	0%	
ベルティーニ「25のやさしい練習曲 Op.100」	0	0%	

この結果から考察を行うと、伝統的な教則本である「バイエル」が半数以上であること、教則本終了後に「ツェルニー30番」に進む学習者が最も多かったこと（約半数）がわかった。そして中級に至る段階で苦手だったテクニックは、片手ではアルペッジョ、トリルが最も多く（36%、35%）次いで半音階（24%）であった。両手ではやはりアルペッジョが第1位（44%）であり、次いで全音階（34%）半音階（33%）となっている。

## 6. 中級に向けての学習方法

今までに述べてきたように、中級の練習曲には和音の技巧を目的としたものが少なかったのに対して、それ以前のものには結構存在するということが分かっている。ただし練習曲によってはテンポの遅めの曲が多くなっており、このグレードを配慮していると言えよう。

さて、教則本終了後に「ツェルニー30番」に進む学習者が意外に多いことが前章のアンケートから分かった。教則本に何をを用いるかにもよるが、中級の練習曲に進む前に、第4章でふれたようなSt.5に相当する練習曲を用いて様々なテクニックの基礎を学ぶべきではないだろうか。そうしないと、急にテンポの速い練習曲を与えられて指が速く動かないことに悩む、という学習者が生じることは筆者が何度も見てきたことである。

それと、中級の練習曲では和音の練習が少なく、これは指の敏捷性に重きを置いているからと推測されるが、あまり偏った学習はすべきではないことを考えると先に述べた練習曲ではテクニックに偏りがあった。音階と分散和音はピアノテクニックの基本には違いないが、音階のみでできた曲、分散和音のみでできた曲というものは基本的に考えにくいし（「ハノン」のような機械的な練習曲が必然的に出来上がってしまうことになる）、前古典派以降の楽曲はホモフォニーで作曲されたものがほとんどであるから、和音のテクニックを練習しないと、例えばシューマンの作品（幻想小曲集Op.12第4曲「気まぐれ」など）のような素早い和音の演奏で困ってしまうことになるだろう。

以上のことから、アンケートも考慮すると、教則本終了から中級に至る過程ではアルペジオやトリル、半音階の練習曲を多めに選択することが望ましいし、中級（たとえば「ツェルニー30番」）を学習する際には和音の練習曲を併用して学習することを提案したい。これによってすべての演奏技巧を学習するという姿勢ができ、あらゆるジャンル、時代の作品に対応できる演奏技巧を習得できる基本となるものと考えられる。

さて、第3章で考察した中級練習曲における演奏技巧で、テクニックを詳細に見た際の現実的な問題をいくつか指摘しておきたい。

まず、トリルの練習曲が少ないことである。トリルはバロック、古典作品においてフレーズや楽曲全体の終止で用いられるが、指の素早い動きを求められるテクニックであり、使用頻度の高いテクニックである。中級練習曲の「ル・クーペ ピアノの練習ラジリテ」で1曲、「指の独立のための予備練習」で1曲、「ツェルニー30番」では1曲であった（ただ「指の独立のための予備練習 第22番」は和音とともに右手の4,5指によるものでかなり難易度が高い）。「St.5」レヴェルの練習曲では「8小節の練習曲に何曲かあるほか、ヴォルターズのグレードではSt.1-4という教則本であるがそれ以上の難易度の曲を含む「ツェルニー100番練習曲」では第34、42、79、85、89番の5曲、「ツェルニー 8小節の練習曲」では第5、25,26,27,36,51番の6曲があるので、これらを学習することを提案したい。

次に、トレモロ（ピアノのテクニックの場合は2音早い間の繰り返しで「バッテリー」と呼ばれることもある）の練習曲も少ないことを挙げておく。このテクニックはライマー＝ギーゼキング「現代ピアノ演奏法」の中で「回転」と名付けられた動きであるが、中級以上のものと考えてよい。ツェルニーの練習曲だと「50番練習曲」のレヴェルにならないと現れないが（第27番）、モーツァルト「ピアノ・ソナタ ハ短調KV457」やベートーヴェン「ピアノ・ソナタ第8番“悲愴”作品13」などに用いられているテクニックなので、中級あるいはそれ以前から経験しておくことが望まれるし、手の小さい学習者にいきなりオクターヴのトレモロは難しいので、5度・6度のトレモロの練習曲を見つけて練習することを提案する。ただ、このテクニックを目的とした練習曲がなかなか見つからない。なぜ練習曲で採用されていないのかについては、いずれ研究課題とするつもりである。

#### 参考文献

Czerny, Carl: Dritter Teil aus Vollständige theoretisch-practische Pianoforte-Schule op.500 邦訳『ツェルニー ピアノ演奏の基礎』岡田暁生訳・解題、春秋社）、2010。

Marpurg, Friedrivh Wilhelm : Anleitung zum Clavierspielen, der schönern Ausübung der heutigen Zeit genäß（邦訳『クラヴィア奏

- 法 美しい演奏をめざして』山田貢監修、井本响二・星出雅子訳)、シンフォニア、2002.
- Leimer, Karl; Giesecking, Walter: Modernes Klavierspiel: Mit Ergänzung: Rhythmik, Dynamik, Pedal (邦訳『現代ピアノ演奏法』井口秋子訳、音楽之友社、1967).
- Wolters, Klaus: Handbuch der Klavierliteratur. Klaviermusik zu zwei Händen. Aklantis Musikbuch-Verlag, Zürich, 1977.
- 井口基成『上達のためのピアノ奏法の段階』音楽之友社、1955.
- 飯田有抄・前島美保『ブルクミュラー25の不思議 なぜこんなに愛されるのか』音楽之友社、2014
- 上田泰史『「チェルニー30番」の秘密 練習曲は進化する』春秋社、2017.
- 萩谷由喜子「ピアノ・エチュードのあゆみとその名品たち—エチュードの定義と歴史」『音楽現代 34 卷 6 号 (通巻 398 号)』芸術現代社、2004.
- 黒川武「ピアノ・エチュードの流れを考える」『ムジカノーヴァ 第 16 卷第 5 号 (通巻 171 号)』1985.
- 武田邦夫「チェルニーとその同類の練習曲について」『ムジカノーヴァ 第 16 卷第 5 号 (通巻 171 号)』音楽之友社、1985.
- 長岡敏夫「ピアノ独奏曲の難易度と学習のプログラム」『ムジカノーヴァ』1977 年 10 月号.
- 安田寛「バイエルの謎 日本文化になった教則本」新潮社、音楽之友社、2012.
- 安田寛、小野亮祐、多田純一、長尾智絵『「バイエル」原典探訪：知られざる自筆譜・初版譜の諸相』音楽之友社、2016.
- 山本美芽「21 世紀へのチェルニー 訓練と楽しさと——」株式会社シヨパン、2005.
- 山本美芽『ピアノ教本ガイドブック～生徒を生かすレッスンのために～』音楽之友社、2017.